

③「周りのために自分ができること」①

「一段落目」今までに人のために何かをしようと思ったこと、実際にしたこと示す。

(例)

周りの人たちのために何かしようと思うことなど、今までの私の生活の中ではほとんどなかったと思います。学校の委員会活動や、家の手伝いでさえ煩わしいと思う方なので、進んで知らない人のために何かをするなんてことはめったにありません。でも、こんな私が、昨年の大震災の時には、自分も何かをしたい、しなくちゃいけないと思ったのでした。

「二段落目」一段落目に提示したことについての説明。

(例)

大きな津波に流されていく人や車や建物。町全体が海にのまれていく映像。その後の多くのボランティアの人たちの献身的な活動。海外からのたくさんさんの支援。テレビやインターネットでそうしたニュースに接する度に、私の中にも少なからずこみ上げてくるものがありました。特に福島原発で、被爆の危険に身をさらしながら、放水作業に従事している人たちのことなどを話に聞くと、鼻の奥がつんとして、涙が出てしまったこともありました。そして、自分も何かしなくちゃいけないと真剣に思い、できることを探してみました。

「三段落目」具体的な例や体験を挙げながら、意見を展開する

(例)

でも、そうやって熱い思いに突き動かされても、実際に私にできたことといえば、自分の貯金の一部を募金箱に入れることぐらいでした。五千円は、私のようなただの中学生にとっては、正直なところかなり高い額です。実際のところ、お金を入れた時は、我ながら頑張るなと思い、少しは役に立てたと思えたのです。でも、そんなのは自己満足でしかないと感じてしまいました。何かしなくちゃいけないと思う気持ちの穴をとりあえず埋めてはみたものの、しばらくして、セレブと呼ばれる人たちが個人で数千万とか数億円の義援金を寄付したというニュースを見たら、途端になんだかがっかりしてしまった自分がいたからです。そんな人たちにお金の額で勝てるわけがないのに、自分の圧倒的な小ささを突き付けられて、なんだかつまらなくなってしまうたのです。困っている人たちがいて、その人たちのために何かをしなきゃいけないと思って募金をしたはずだったのに、自分の果たす役割がとても小さいものだと気づくと、いやになつてしまいました。

「四段落目」結論・まとめ

(例)

そんな経験があつて、私は一つ学ぶことが出来ました。それは、私にも他の人のために何かをしたいと思う時があるということであり、でもその気持ちには少し偽善的で、自分が目だつたり評価されたりしないと、何をしても満足することはできないということです。人のために何かをすることは大切なことだと思います。しかし、人間は、誰かがそれを評価してくれないと、喜んで他人のために動くことはできないのだと思います。